

オリンピック・パラリンピック中央区民参加事業 『折り鶴ウェーブ』（仮称）企画案

1 概要

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催時に中央区に訪れた外国の方々を対象に、「おもてなし」の心で日本の伝統文化である「折り紙」を手渡し、ひとときの交流を深める。

折り紙は、「折り鶴」にする。「折り鶴」は平和の象徴であり、オバマ大統領がヒロシマに訪れた際、自作の「折り鶴」を供えたことで世界でも知られている。

中央区のまちかどで「折り鶴」を受け取った人たちは、自国に持ち帰り、「折り鶴」を広げて、日本の思い出としてそれぞれの国の家庭に飾られる。

そして、「折り鶴」を折る区民は老若男女問わず、その日を楽しみにしながら、中央区に選手村が出来るので、何か東京2020大会に参加したいと思う気持ちを満たすことが出来る。

中央区は「平和都市宣言」をしているので、その意味でも意義深いものである。

2 効果

- (1) 折り鶴は嵩張らず、喜んで持ち帰ってもらえるとともに、広げたときは立体になる。
- (2) 折り鶴は子どもや大人、高齢者も作ることが可能なため、どこの国で自分の作った折り鶴が飾られるのかなど、夢も多い。
- (3) 広く区民に呼びかけ、団体に所属していない1人暮らしの方でも参加することが可能である。また、自分のペースで自宅で無理のない範囲で参加できる。
- (4) 例えば、15cm角の折り紙（折り紙の定番品）を決めて、買い求めているだけで安価で参加できる。

3 提案側の準備と問題点

- (1) 企画の折り紙で折られた折り鶴を（3羽くらい）入れる透明のビニール袋を用意する。
ビニール袋を配布し、折り鶴を入れたものを回収する。または、各家庭で保管し、配布期間中に指定の場所などに持ち寄り、自分たちで手渡すこともできる。
- (2) ビニール袋に入れるチラシを用意する（多言語表記）。
「welcome to Chuo City」などの言葉や折り鶴の意味や広げ方の解説を入れる。
- (3) 期間・回収方法。回収したものの保管
- (4) オリンピック・パラリンピック競技大会期間中の配布方法
- (5) この事業の区民への周知手段として、組織や団体に属していない一般の方々にも伝わるようにして、東京2020大会終了後も区の行事に参加してもらえる環境を整える。

平成30年1月26日

オリンピック・パラリンピック区民協議会
ボランティア検討部会
鈴木 明美